

# 「神の言葉」に関する包括的な聖書研究

## 序論：神の言葉の根本的な重要性

「神の言葉」は信仰の中心であり、神が人類に啓示を与えたものです。それを受け入れることで、聖書の完全性と権威に対する確信が深まり、従順さが育まれ、キリスト教徒になるための基礎となります。聖書は、神の言葉による命令、預言的なメッセージ、イエス・キリストの人格、そして旧約聖書と新約聖書を含む聖書そのものを包含しています。

- ヘブライ人への手紙 4:12-13 (新国際版聖書)：神の言葉は生きていて力があり、どんな両刃の剣よりも鋭く、魂と霊、関節と骨髄を分けるほどにまで突き刺さり、心の思いや意図を見抜きます。被造物の中で、神の御前から隠されているものは何一つありません。すべては、私たちが弁明をしなければならない方の御前に、明らかにされ、さらけ出されているのです。
  - 解説：御言葉（ギリシャ語：ロゴス、神の表現）は生きており（関連性があり）、活動的で（ダイナミックであり）、罪と真実を明らかにする霊的な手術を行います。それは時に「痛み」を伴うかもしれませんが、癒しへと導きます。御言葉は隠された考えを明らかにし、すべての人に責任を負わせ、信者たちにその挑戦から逃げないように促します。
- テモテへの手紙第一 4 章 16 節 (新国際版聖書)：「自分の生活と教えに細心の注意を払いなさい。それらを堅く守りなさい。そうすれば、あなた自身と、あなたの話を聞く人々を救うことになるでしょう。」
  - 解説：生活（行い）と教義（教え）は救いにとって極めて重要です。解釈の違いは、「なぜこれほど多くの意見があるのか？」という疑問を生じさせます。誤りを避けるためには、健全な教えを堅持することが不可欠です。
- テモテへの第二の手紙 3:16-17 (新国際版聖書)：「聖書はすべて神の靈感によって書かれたもので、教え、戒め、正し、義のうちに訓練するために有益です。それは、神のしもべがあらゆる良い働きのために十分に整えられるためです。」

- 解説：聖書は靈感を受けて書かれた（ギリシャ語：テオプネウストス、「神の息吹による」）実践的な書物であり、信者があらゆる善行を行うための備えとなる。すべての人が聖書を受け入れるわけではないが、霊的な成熟に必要なすべてを与えてくれる。
- ヨハネによる福音書 12:47-48（新国際版聖書）「わたしの言葉を聞いても守らない人がいても、わたしはその人を裁きません。わたしは世を裁くために来たのではなく、世を救うために来たからです。わたしを拒み、わたしの言葉を受け入れない人には、裁く方がいます。わたしが語ったその言葉が、終わりの日にその人を裁くのです。」
  - 解説：イエスの言葉（ギリシャ語：レーマ、語られた言葉）を拒むことは、イエス自身と救いを拒むことです。神は、まるで事前に与えられた試験のように、裁きの基準を惜しみなく明らかにし、失敗の言い訳を一切許しません。
- 使徒行伝 17:10-11（新国際版聖書）：夜になるとすぐに、信者たちはパウロとシラスをベレアへ送り出した。二人はベレアに着くと、ユダヤ人の会堂へ行った。ベレアのユダヤ人はテサロニケのユダヤ人よりも高潔な人柄で、熱心にみことばを受け入れ、パウロの言っていることが真実かどうかを確かめるために、毎日聖書を調べていた。
  - 解説：ベレアの人々の高潔な対応 —— 聖書を熱心に受け入れ、日々吟味したこと —— は、模範となるものです。熱心に読み、疑問を持ち、聖書と照らし合わせて教えを検証しましょう。

## 創造、歴史、預言における神の言葉（旧約聖書に焦点を当てて）

旧約聖書において、「言葉」（ヘブライ語：dabar、言葉と行動）とは、創造、導き、裁き、預言を行う神の直接的な言葉または命令である。それは能動的で、権威があり、生命を維持するものである。

- 創世記 1 章 3 節（新国際版聖書）：神は言われた。「光あれ」。すると光があった。（創世記 1 章 6 節、9 節、11 節などにも同様の記述がある。）
  - 説明：神の言葉は瞬時に創造し、その創造力を示しています。
- 詩篇 33 篇 6 節（新国際版聖書）：主の言葉によって天は造られ、その口の息によって星々は造られた。
  - 説明：神の息吹と結びついた言葉が宇宙を形作る。
- 詩篇 148 篇 5 節（新国際版聖書）：「主の御名をほめたたえよ。主の命令によって彼らは創造さ

れたのだから。」

- 説明：被造物は、神の言葉によって創造されたので、神を賛美する。
- イザヤ書 55 章 11 節（新国際版聖書）：「わたしの口から出るわたしの言葉も、むなしくわたしのもとに帰ることはなく、わたしの望むことを成し遂げ、わたしが送った目的を果たす。」
  - 説明：神の言葉は、創造、導き、裁きなど、その目的を常に果たします。
- 出エジプト記 20 章 1 節（新国際版聖書）：神はこれらの言葉をすべて語られた。
  - 説明：十戒を紹介し、聖書が契約に基づく指針であることを示します。
- 申命記 8:3 (NIV): 「主はあなたを謙遜にし、飢えさせ、それからマナを与えて養われた。それは、人がパンだけで生きるのではなく、主の口から出るすべての言葉によって生きることをあなたに教えるためであった。」
  - 説明：聖書は、肉体的な必要を超えて、霊的な生活を支えます。
- ヨシュア記 1:8（新国際版聖書）「この律法の書を常に口にし、昼も夜もそれを黙想し、そこに書かれているすべてのことを注意深く守り行いなさい。そうすれば、あなたは繁栄し、成功するでしょう。」
  - 説明：聖書の言葉を黙想することは、従順と成功を確実にする。
- エレミヤ書 1:4 (NIV): 「主の言葉が私に臨み、こう言われた。」
  - 説明：預言的な啓示は、神のメッセージを伝えるものです。
- エゼキエル書 1 章 3 節（新国際版聖書）：主の言葉が、バビロニアの地のケバル川のほとりで、ブジの子である祭司エゼキエルに臨んだ。そこで主の手が彼の上に臨んだ。
  - 説明：聖書は預言者たちに宣言をするように指示している。
- サムエル記上 3:1（新国際版聖書）：少年サムエルはエリのもとで主の前に仕えていた。その頃は主の言葉はまれで、幻もあまりなかった。
  - 説明：その言葉の希少性が、それを貴重なものにした。
- 列王記上 17:2（新国際版聖書）：「そのとき、主の言葉がエリヤに臨んだ。」
  - 説明：それは預言的働きを導くものです。

- イザヤ書 40 章 8 節（新国際版聖書）：「草は枯れ、花はしぼむ。しかし、私たちの神の言葉は永遠に続く。」
  - 説明：御言葉は永遠であり、創造よりも長く存続する。
- アモス書 3 章 1 節（新国際版聖書）：「イスラエルの民よ、この言葉を聞きなさい。主があなたたち、すなわちわたしがエジプトから連れ出した全家族に対して語られた言葉を。」
  - 説明：それは判断を促し、注目を集める。
- 詩篇 107 篇 20 節（新国際版聖書）：主は御言葉を遣わして彼らを癒し、墓から救い出された。
  - 説明：御言葉は癒しと解放をもたらします。

歴史的背景（使徒行伝 7:1-38）：使徒行伝 7 章は、歴史を通しての神の言葉の概要を示しています。神はアブラハムを召し（1-8 節）、ヤコブをエジプトへ導き（9-16 節）、モーセを立ててイスラエルを奴隷状態から解放し（17-29 節）、モーセを通して「生きた言葉」（38 節）を与えました。これらは、ヘブライ語／アラム語で書かれた最初の 5 つの書（創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記）（紀元前 1400 年～400 年）を形成し、ユダヤ教の聖典として受け入れられています。数世紀にわたり、預言者たちが靈感を受けた書物を加え、律法と預言書が形成されました。

## 神の言葉は、受肉したイエス・キリストとして現れる（新約聖書の成就）

新約聖書において、言葉（ロゴス、神の表現）はイエスにおいて人格化され、旧約聖書の約束を成就し、神の啓示を体現している。

- ヨハネによる福音書 1:1-3, 14（新国際版聖書）：「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。言は初めに神と共にあった。万物は言によって造られた。造られたもので、言によらずにできたものは一つもない。…言は肉となって、私たちの間に宿った。私たちはその栄光を見た。父から来られた独り子の栄光を。恵みと真理に満ちて。」
  - 説明：イエスは神聖で創造的な言葉（ロゴス）であり、創世記の創造と結びつき、神を啓示しています（ヨハネ 1:18：「神を見た者は一人もいない。ただひとりの御子、すなわち神であり父と最も親しい関係にある方が、神を明らかにしたのである」）。
- ヨハネによる福音書 5:39-40（新国際版聖書）：あなたがたは聖書を熱心に研究している。それは、聖書の中に永遠の命があると考えているからである。しかし、その聖書こそ、わたしについて証ししているものなのに、あなたがたはわたしのところに来ようとしない。わたしの命を

得ようとしなないのだ。

– 説明：聖書は永遠の命を得るにはイエス・キリストが必要だと説いています。

- ヨハネの黙示録 19 章 13 節（新国際版聖書）：「彼は血に染まった衣をまとっており、その名は神の言葉である。」

– 説明：イエスの御名が「言葉」であることは、裁きにおけるイエスの権威を象徴している。

- ルカによる福音書 24:27、44-49（新国際版）：「そして、モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体に自分について書かれていることを彼らに説明し…彼らに言われた。『わたしがまだあなたがたと一緒にいたとき、あなたがたに言ったとおり、モーセの律法、預言者、詩篇にわたしについて書かれていることはすべて成就しなければならない。』それから、彼らの理解力を開いて、聖書を理解できるようにした…罪の赦しを得るための悔い改めが、彼の名によってすべての国々に宣べ伝えられるであろう。」

– 説明：イエスは旧約聖書を成就し、使徒たちにそのメッセージを宣べ伝える力を与え、彼らの心をその意味へと開かせた。

- ヨハネによる福音書 8 章 31-32 節（新国際版聖書）：イエスは、自分を信じたユダヤ人たちに言われた。「もしあなたがたがわたしの教えにとどまるなら、あなたがたは本当にわたしの弟子です。そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にするでしょう。」

– 説明：イエスの言葉（ロゴス）にとどまることは、弟子としての生き方と自由をもたらします。

- ヨハネによる福音書 15:3（新国際版聖書）：「あなたがたは、わたしがあなたがたに語った言葉によって、すでに清くなっているのです。」

– 説明：イエスの言葉（ロゴス）は信者を清める。

- ヘブライ人への手紙 1:1-3（新国際版聖書）：昔、神は預言者を通して、さまざまな方法で、私たちの先祖に語りかけられました。しかし、この終わりの時代には、御子を通して私たちに語りかけられました。神は御子を万物の相続者と定め、また御子を通して宇宙を創造されました。御子は神の栄光の輝きであり、神の本質の完全な現れです。御子は、その力強い言葉によって万物を支えておられます。

– 説明：神は御子を通して語りかけ、御子は御言葉（レーマ、言葉による命令）によって創造物を支えます。

融合されたテーマ：イエスは律法と預言者（マルコ 12:28-34：「主なるあなたの神を愛しなさい…そして『あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい』」）を成就し、儀式的な律法（コロサイ 2:16-17：「これらは来るべきものの影であり、その実体はキリストにある」）を実体として凌駕した。（注：原文には、視覚的な分かりやすさのために、成就や戒めの図解と思われる図解画像が含まれている。）

## 書かれた言葉：インスピレーション、権威、そして実用性

聖書は靈感を受けており、権威があり、変革をもたらすものであり、信者を導き、教義を形成する。

- ペテロの手紙第二 1:20-21（新国際版聖書）：「何よりもまず、聖書の預言はどれも、預言者自身の解釈によるものではないことを理解しなさい。預言は決して人間の意志から出たものではなく、預言者たちは人間でありながらも、聖霊に導かれて神から語ったのである。」
  - 説明：聖書は聖霊によって書かれたものであり、人間の意志によるものではありません。
- 詩篇 119 篇 105 節（新国際版聖書）：あなたの言葉は私の足のともしび、私の道の光です。
  - 説明：御言葉（ダブル）は日常生活を導く（詩篇 119 篇は 170 節以上にわたって、それを律法、法令などとして称賛している）。
- ローマ人への手紙 15:4（新国際版聖書）：「過去に書かれたことはすべて、私たちが教えるために書かれたのです。それは、聖書が教える忍耐と、聖書が与える励ましによって、私たちが希望を持つことができるためです。」
  - 説明：旧約聖書は教訓を与え、希望を与えてくれる。
- ガラテヤ人への手紙 3 章 8 節（新国際版聖書）：「聖書は、神が異邦人を信仰によって義とされることを予見し、アブラハムに前もって福音を告げました。『すべての国々はあなたを通して祝福されるでしょう。』」
  - 説明：聖書は信仰による救いを預言している。
- テサロニケ人への手紙第一 2:13（新国際版聖書）：「そして、あなたがたが私たちから聞いた神の言葉を受け入れたとき、それを人間の言葉としてではなく、実際に神の言葉として受け入れたので、私たちは絶えず神に感謝しています。その神の言葉は、信じるあなたがたのうちに確かに働いているのです。」
  - 説明：説教された言葉（ロゴス）は信者を変容させる。

- ヤコブの手紙 1 章 21 節 (新国際版聖書)：「ですから、あらゆる道徳的な汚れと、蔓延している悪を捨て去り、あなたがたのうちに植え付けられた御言葉を謙遜に受け入れなさい。御言葉はあなたがたを救うことができます。」

– 説明：植え付けられた言葉 (ロゴス) は、謙虚に受け入れたときに救いをもたらします。

- テモテへの第二の手紙 3:16-17 (新国際版) (強調のために繰り返し)：「聖書はすべて神の靈感によって書かれたもので、教え、戒め、正し、義のうちに訓練するために有益です。それは、神のしもべがあらゆる良い働きのために十分に整えられるためです。」

– 説明：聖書は親のように人を訓練し、教え、正し、義を通して成熟を促します。

### 解釈が異なる理由：

- 無知 (マタイ 22:29：「あなたがたは聖書も神の力も知らないで、誤っているのです」、ホセア 4:6：「わたしの民は知識がないために滅びるのです」)。
- 個人崇拜 (コリント人への手紙第一 1:12：「あなたがたのうちの一人は『私はパウロに従う』と言い、別の者は『私はアポロに従う』と言う…」、使徒言行録 20:30：「人々は立ち上がり、真理を歪めるだろう」)。
- 聖書の歪曲 (ペテロ第二 3:16：「無知で不安定な人々は、他の聖書と同様に、聖書を歪曲する」；創世記 3:1：「神は本当にこう言われたのか…」)。
- 個人的な都合 (テモテへの第二の手紙 4 章 3 節：「彼らは健全な教えに耐えようとせず、自分の欲望に合わせようとする」；イザヤ書 30 章 10-11 節：甘い言葉を求める)。
- 人間の伝統 (マルコ 7:6-9：「あなたがたは自分たちの伝統のために神の言葉を無効にしている」、コロサイ 2:8：「空虚で欺瞞的な哲学…人間の伝統」、マタイ 15:6-9)。
- 付け加えること (箴言 30:6：「彼の言葉に付け加えてはならない。さもないと、彼はあなたを叱責するだろう」；黙示録 22:18；申命記 4:2、12:32；コリント人への第一の手紙 4:6)。
- 従おうとしないこと (ヨハネ 7:17：「神の意志を行おうとする者は、わたしの教えが神からのものかどうかを知るであろう」、ヨハネ 8:31-32)。

説明：過失は神ではなく人間にある。聖書は根本的な点について明確に述べている。不健全な教義 (例えば、しるしと不思議、健康と富、終末論、ガラテヤ書に矛盾するメシア的ユダヤ教、過剰反応としての信仰のみ) は、霊的なジャンクフードのようなもので、健全な教義 (健全な教え) に比べると

不健康である。離脱の頭字語: 簡単な道 (2 テモテ 4:2-3; イザヤ 30:10-11; ヨハネ 8:31-32)、余分な教え (箴言 30:6; 申命記 4:2, 12:32; 1 コリント 4:6; 黙示録 22:18-19)、無知 (マタイ 22:29; ホセア 4:6; イザヤ 1:2: 「私は子供たちを育てたが、彼らは反逆した」; 2 テモテ 2:15: 「神に認められる者として、真理の言葉を正しく扱う者として、最善を尽くしなさい」)、伝統 (マタイ 15:6-9; マルコ 7:6-9)。

## 聖書の歴史的発展と正典

聖書の形成は神の摂理によるものであり、旧約聖書の正典は西暦 1 世紀末までに、新約聖書は 4 世紀初頭までに確定した。

- 旧約聖書：ヘブライ語／アラム語で書かれ（紀元前 1400 年～400 年）、ユダヤ教で受け入れられている。
- 新約聖書：紀元 1 世紀にギリシャ語で書かれ、イエスの復活から 45～60 年後に完成した。キリスト教は、当初はユダヤ教の一派であったが、異邦人の改宗と新約聖書が神の靈感を受けたものとして受け入れられたこと（例：ペトロの手紙二 3:15-16）により独立した宗教となった。
- 正典化：ギリシャ語の *kanon*（測量棒）に由来し、靈感の決定を意味する。ムラトリ正典（紀元 180 年頃）は初期のもので、新約聖書の正典全体は 4 世紀初頭までに成立した。
- 外部資料：タキトゥス、スエトニウス、タロス、プリニウス（ローマ）、ヨセフス、ラビ文献（ユダヤ）、新約聖書外典、教父文献（西暦 325 年以前に 3 万件以上の引用）、コーラン（7 世紀）はキリスト／キリスト教を裏付けており、聖書だけが唯一の情報源ではないことを示している。
- 使徒文書は不完全：すべてが含まれているわけではありません（コロサイ 4:16：ラオデキヤ人への失われた手紙、コリント第一 5:9：以前の手紙、テサロニケ第二 3:17：真正性）。新約聖書は十分ではありますが、網羅的ではありません（ヨハネ 20:30：「イエスは他にも多くのしるしを行われたが、記録されていない」、ヨハネ 21:25：「世界には書物を置く場所がない」）。
- 外典／偽典：新約聖書の外典（2 世紀から 4 世紀の憶測）と偽典（誤って帰属されたもの）は、神の靈感によるものではありません。旧約聖書の外典（紀元前 200 年～紀元後 100 年、ラテン語聖書では紀元後 400 年頃、カトリック教会で使用され、16 世紀以降多くのプロテスタントによって拒否された）は歴史的価値（例：マカバイ記第一）がありますが、普遍的に神の靈感によるものではありません。
- パウロの靈感：ペテロ第二 3:15-16：「私たちの愛する兄弟パウロは…神から与えられた知恵をもってあなたがたに手紙を書きました…他の聖書と同じように」。テモテ第一 5:18 は、ルカ

10:7（「働き人はその報酬を受けるに値する」）を聖句として引用しています。コリント第一 7:10,12 では、パウロはイエスが取り上げた／取り上げなかった話題について述べており、意見と靈感を対比させているわけではありません。

- 他に靈感を受けた書物はありません。ガラテヤ人への手紙 1:6-9,12: 他に福音はありません。ユダの手紙 3: 「一度限り託された信仰」。ペテロの手紙第二 1:3: 「敬虔な生活を送るために必要なすべてのもの」。エペソ人への手紙 4:13: 「信仰の一致」。コリント人への手紙第一 13:10-11: 「完全さが訪れるとき」。追加資料（例：モルモン書、神の原則、科学と健康）は禁止されています（申命記 4:2、12:32、コリント人への手紙第一 4:6）。

正確性：死海文書（紀元前 200 年～紀元後 68 年、1947 年発見）には、エステル記を除く旧約聖書の全巻が含まれており、伝承の確実性が確認されている（例：イザヤ書 53 章の写本は後の写本と一致する）。死海文書以前の最古の旧約聖書写本は紀元後 10 世紀のものである。

聖書の版：KJV（1611 年版）は時代遅れで、誤りがあり、18 世紀まで外典を含み、死海文書やパピルス文書が欠落しています。学習には動的等価訳（NIV、ESV、Holman CSB）を、正確さを求めるならより厳密な翻訳（NRSV、NASB）を推奨します。言い換え訳（Living Bible、NLT）は避け、自由訳（NEB、Jerusalem Bible、TEV）は慎重に使用してください。

## 旧約聖書：生きた言葉、律法、そしてキリストにおける成就

旧約聖書には「生きた言葉」（ダバル）が含まれており、それらは分類され、キリストにおいて成就された。

- 出エジプト記 19 章 3-6 節（新国際版聖書）：「あなたがたは、わたしがエジプトにしたこと、そして、わたしが鷲の翼に乗せてあなたがたを運び、わたしのもとに連れてきたのを、自ら見た。今、あなたがたがわたしに完全に従い、わたしの契約を守るならば、あなたがたはすべての国民の中からわたしの宝となるであろう。祭司の王国、聖なる国民となるであろう。」
  - 説明：律法はイスラエル人を祭司および証人として区別する。
- 出エジプト記 20 章 1-6 節（新国際版聖書）：神はこう言われた。「わたしはあなたの神、主である。あなたはわたしのほかに、ほかの神々を拜んではならない。あなたは自分のために偶像を造ってはならない。」
  - 説明：一神教はイスラエルを特徴づけるものだった。

- 申命記 4:5-8 (新国際版聖書): 「これらのことを注意深く守りなさい。そうすれば、諸国の民はあなたの知恵と理解力を知るでしょう。彼らはこれらのすべての定めを聞いて、『確かにこの偉大な国民は、知恵と理解力のある民だ』と言うでしょう。」

– 説明：律法は、神とイスラエルとの関係を証言するものでした。

- コリント人への手紙第一 10 章 11 節 (新国際版聖書)：これらの出来事は彼らに起こったことであり、私たちへの戒めとして書き記されたのです。私たちは世の終わりに生きているのです。

– 説明：イスラエル人の経験は、キリスト教徒が祭司、礼拝者、証人として生きる上での指針となる。

法律の種類：

- 儀式 (礼拝、犠牲)：キリストの影 (ヘブライ人への手紙 10:1-4：「律法は影にすぎない…決して…完全にすることはできない」；レビ記 17:11：「贖いをするのは血である」；ヘブライ人への手紙 9:1-10：神殿の設計は啓示の必要性を示している)。
- 市民的 (社会秩序)。
- 道徳 (心の正義)。

成就：コロサイ人への手紙 2 章 16-17 節：儀式的な律法は影であり、キリストこそが実体である。マルコによる福音書 12 章 28-34 節：イエスは律法を神と隣人を愛することと要約している。

## 新約聖書：使徒と預言者を通して伝えられる生きた言葉

神は使徒や預言者を通して「生きた言葉」を語り、旧約聖書を解釈し、イエスの生涯と教えを記録し、キリスト教の教義を確立した。

- ルカによる福音書 24 章 44-49 節 (新国際版聖書)：イエスは使徒たちの心を開き、聖書を理解させ、悔い改めと赦しを説くよう命じた。
- 使徒行伝 2 章 22-32 節 (新国際版聖書)：ペテロは詩篇 16 篇 8-11 節 (ダビデ、紀元前 1000 年頃) を引用し、「あなたは私を死の国に捨て置かない…あなたは私に命の道を示してくださった」と述べ、イエスの復活を証明している。
- 使徒行伝 3:17-23 (NIV): ペテロは申命記 18:18-19 (モーセ、紀元前 1400 年頃) を引用し、「わたしは彼らのためにあなたのような預言者を立てる」と述べ、イエスを指し示しています。

- 使徒行伝 17 章 1-4 節 (新国際版聖書)：パウロは聖書から、イエスが苦しみを受け、復活しなければならなかったことを証明している。
- エペソ人への手紙 3:2-6 (新国際版聖書)：「キリストの奥義は…今や御霊によって、神の聖なる使徒たちと預言者たちに明らかにされた。」
  - 解説：新たな啓示により、キリストが異邦人をも含めたという点が明確になった。
- ローマ人への手紙 16:25-27 (新国際版聖書)：「長い間隠されていた奥義が、今や預言者たちの書物を通して明らかにされ、知らされたのです。」
  - 説明：預言書はすべての国に恩恵をもたらします。
- 福音書：
  - マタイ：ユダヤ系キリスト教徒にとって、預言の成就を強調する。
  - マルコ：異邦人（ローマ人）のための簡潔な福音書。
  - ルカ：ギリシャ人向け、テオフィロ宛て、確実性を保証する（ルカ 1:1-4：「あなたがたが教えられた事柄の確実性を知るため」）。
  - ヨハネ：一般向け、補足的な詳細（ヨハネ 20:30-31：「これらはあなたがたが信じるために書かれたものです」）。
- 手紙：フィリピン人への手紙 3 章 1 節：パウロは保護するために手紙を書いています。ペテロの手紙第二 3 章 1-2 節、15-16 節：ペテロは健全な思考を促すために手紙を書いており、パウロの手紙を聖書と同等に扱っています。

歴史的信憑性：新約聖書は正確な世俗的な出来事を記録しており、物語の詳細な記述は年代順を裏付け、使徒たちは福音書や手紙を聖書とみなしていた。

## 神の言葉の特徴と効果

聖書全体を通して、御言葉の特質は一貫している。

特性	重要な聖句	聖書的説明
永遠／不変	イザヤ書 40 章 8 節、マタイによる福音書 24 章 35 節：「わたしの言葉は決して廃れることはない。」	創造よりも長く存続する。

特性	重要な聖句	聖書の説明
強力／効果的	ヘブライ人への手紙 4 章 12 節、イザヤ書 55 章 11 節、ローマ人への手紙 10 章 17 節：「信仰は、キリストについての御言葉を聞くことから始まるのです。」	神の意志を成就し、信仰を生み出す。
純粹／真実	詩篇 12 篇 6 節：「主の言葉は完全です」、ヨハネによる福音書 17 章 17 節：「あなたの言葉は真実です。」	聖化する。
生命を与える	申命記 8 章 3 節、ヨハネによる福音書 6 章 63 節：「わたしが語った言葉は…霊と命に満ちている」、ヨハネによる福音書 6 章 68 節：「あなたがたは永遠の命の言葉を持っている」	霊的な生活を支える。
服従を求める声	ヤコブの手紙 1 章 22-25 節：「聖書に書いてあるとおりにしなさい」；サムエル記上 15 章 22-23 節：犠牲よりも従順を重んじなさい。	行動を要求すれば、逆すれば裁きが下される。
布告／宣言	使徒行伝 6:7：「神の言葉は広まった」；使徒行伝 12:24：「広まり続けた」；マタイによる福音書 13:1-23（種まき）。	教会を成長させる。

救い／裁き：ヨハネ 12:48（言葉は裁く）；ローマ 1:16：「福音は…救いをもたらす神の力です」；エペソ 1:13：「真理の言葉、すなわちあなたがたの救いの福音」；ヨハネ 16:8：罪を悟らせる。

よくある質問、課題、および応用例

- 非信者に対しては、聖書を読むこと（ローマ人への手紙 10 章 17 節、ヨハネによる福音書 20 章 30-31 節）と従順であること（ヨハネによる福音書 7 章 17 節：「神の御心を行おうとする者は誰でも、それを知るであろう」）を勧める。
- 課題：毎日熱心に聖書を読む（例：ヨハネによる福音書）。質問をする。毎日勉強する（使徒行伝 17:11）。勤勉に働く（テモテへの第二の手紙 2:15）。

## まとめ

言葉（ダブル、ロゴス、レーマ）は、創造的な言葉からイエスの受肉、そして靈感を受けた聖書へと発展します（ペテロの手紙第一 1:23-25：「生きていて永遠の神の言葉を通して」）。それは神を啓示し、支え、変容させ、従順と宣教を要求します。